

令和6年度 学校運営協議会 未来へつなぐ学び部会 議事録

実施日	令和6年10月31日(木) 13:00~13:40
時・場所	専修大学 生田キャンパス9号館2階 92E会議室
出席者	学校運営協議会委員 1名 教職員4名
	<p>(1) 学校長挨拶</p> <p>わかりやすい講義ありがとうございました(本日は専修大学一日体験があり、本校1学年全員が齊藤先生の授業を受けました)。今年度はICT利活用授業研究推進校の最終年であり、自らの学びを調整する力を養う授業実践を行っています。ICTを利活用した授業実践は、県内でもトップクラスであると自負しています。また、今年度は高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に採択され、デジタル人材の育成を目指しています。具体的な取り組みとしては、情報Ⅱを開講し、新しいパソコン教室を作っています。一方、本校では通級による指導も行っており、支援が必要な生徒に対して、自立活動を通じたコミュニケーションスキルの向上を育んでいます。今年度は学校評価に係る第三者評価が必要になります。そこで、齊藤先生や岩崎先生にもお手伝いをお願いしたいと思っています。</p> <p>(2) 本校の近況、今年度の取り組みについて</p> <p>今年度はICT利活用授業研究推進校の3年目で、これまで協働する力、探究する力の育成を目指した授業実践に取り組んできました。今年度は、自らの学びを調整する力の育成を目指した授業を行うことを目指しています。そのために、校内全体での研修を行ったり、教科会で授業について話し合う場を設けたりしながら、学校全体で取り組んでいます。その一つの成果として、11月22日(金)に公開授業研究会が行われることになっています。</p> <p>本校の生徒に対しての進路指導は、机上での学びよりも体験を通しての学びの方が効果的な印象を受けています。そのため、本日のような体験授業を受けさせていただく機会は、本校の生徒にとって貴重な機会になったと思います。また、専修大学に進学を希望している生徒も増えていることから、専修大学との連携を強めていきたいと思っています。</p> <p>(3) 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT利活用授業研究推進校としての取り組みは素晴らしいが、ICTを利活用するための機械操作ができることが前提となっているのでしょうか? →年度を重ねるごとに機械操作が上手な生徒が増えている印象です。今は、生徒の方が先生よりも上手に使えています。 ・大学ではパソコンの操作ができない学生がいます。スマホは使えるが、キーボードが使えない学生が増えているように感じます。スマホでは画面が小さくて大学の授業では不向きな場面があります。パソコンの指導をお願いしたいと思います。 →その通りだと思います。情報の授業ではキーボードでのタイピングの練習も行っています。引き続き指導を行っていきたいです。 ・AIを使うためのモラルを教えることは重要であると思います。また、メディアリテラシーを向上させることも重要だと思います。 →その通りだと思います。今後も継続した指導を行っていきたいです。 ・大学では誤った方法でChatGPTを使ったようなレポートが見られた。学生はChatGPTを活用する場面が多いと感じますが、高校ではどうでしょうか? →高校でも生成AIの研修を行いました。高校ではChatGPTの内容を検証する授業を行っている教科もあります。 →ChatGPTを用いたところ、参考文献に挙げられている文献が架空のものであったという事例もありました。これは捏造や剽窃(ひょうせつ)が起りうるということです。また、使うAIによって答えが変わることもあります。ChatGPTは、高校の指導でも重要だと思います。意識改革によりAIを使うことも重要ですが、従来通りの手で書いて考えることも重要だと思います。最先端のものを扱う場面でも、紙と鉛筆を使うことを重要視することもあります。両方のバランスを取りながら授業を行うことが重要だと思います。 ・体験から学ぶことは重要です。知識と体験を融合させることが深い学びにつながります。大学の卒業生の中には、海外への留学を機に海外で働いている人もいます。悩むことが成長につながり、どういう仕事につきたいかを考えることは決して無駄なことではありません。高校での実践を大学でも生かしていきたいとも思います。